

## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

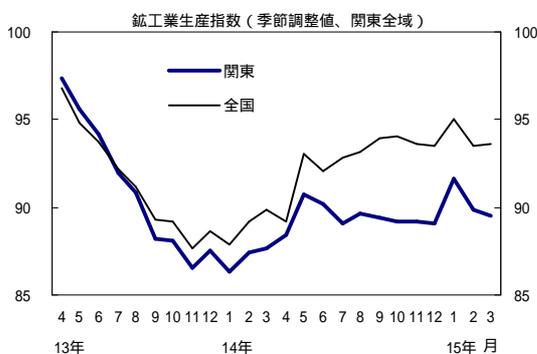
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成15年2月)	今回(平成15年5月)	
景況判断	持ち直しの動きが緩やかになっている	持ち直しの動きが続いている	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに増加	
住宅建設	おおむね横ばい	緩やかに減少	
雇用情勢	依然として厳しい	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

電気機械は、1、3月に新機種が出たこともあり、カメラ付き携帯電話が引き続き好調で、前期比で増加に転じている。化学は、アジア向け輸出が引き続き好調で、国内需要でも自動車向けが好調となり、堅調に推移している。一般機械は、1、3月に半導体製造装置などが好調であったため、前期比で増加に転じている。輸送機械は、国内需要では、新車投入効果による小型乗用車、10月からの排ガス規制による買い替え需要に対応してトラックが好調だが、これまで堅調に推移してきた米国向けの輸出が3月に減少に転じたため、前期比で減少となった。



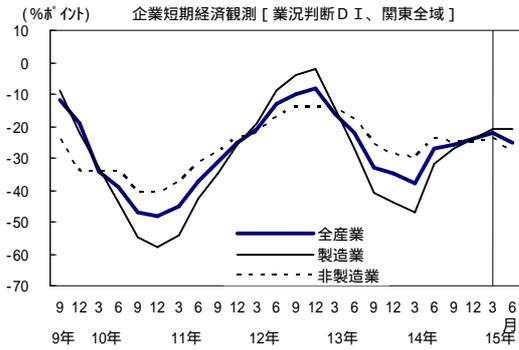
- (備考) 1. 平成15年3月の関東は速報値。  
2. 関東は平成7年基準(左目盛)、  
全国は平成12年基準(右目盛)。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

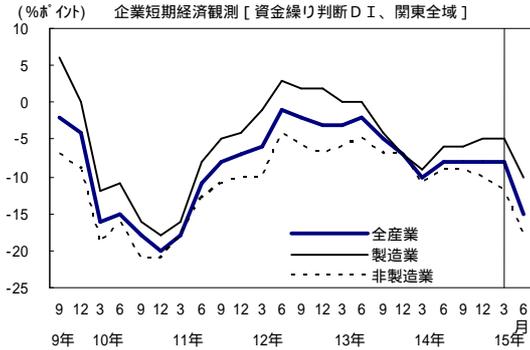
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電気機械	23.6	2.2	2.1	2.7	8.4
化学	13.2	0.9	1.3	2.5	1.8
一般機械	12.0	1.6	3.2	2.8	1.9
輸送機械	11.3	0.8	2.9	2.2	16.1
食料品・たばこ	5.8	0.1	3.4	2.5	0.9
鉱工業	100.0	0.2	1.2	1.1	2.6

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 1~3月期は速報値。  
3. 1~3月期の化学、食料品・たばこについては、1月、2月確報値の平均より算出。

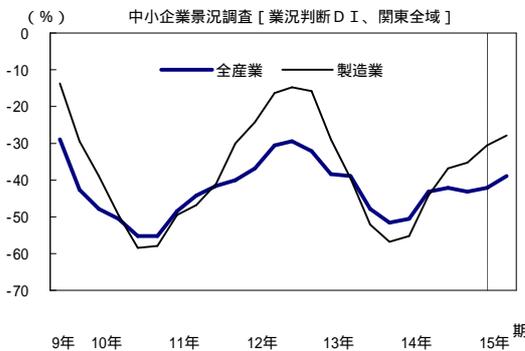
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。  
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年6月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年6月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

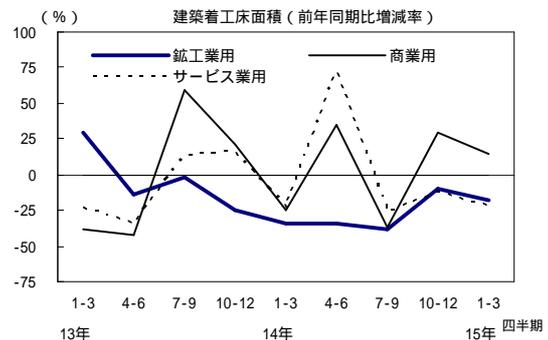
「新年度から、得意先が製品の販売価格を採算の取れる価格に戻している。販売量は減少しているが、売上は変わらないと聞いている (輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の14年度実績見込みは13年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査、関東全域)]  
 (前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績見込み	15年度見通
全産業	5.1( 1.2)	0.4
製造業	12.4( 2.0)	0.6
非製造業	4.2( 1.1)	0.5

(備考) ( )は前回(12月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

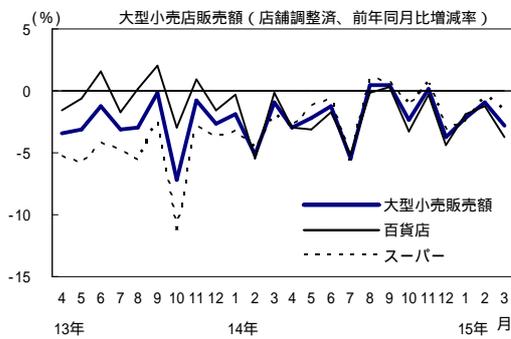
### 大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、1月は、初商日を早めるなどセール効果から衣料品に動きがあり、水準を戻したものの、後半は天候不順で伸び悩んだ。2月は、アクセサリー等が好調な身の回り品、洋菓子等が好調な飲食料品が前年を上回り、セール効果によりコート等冬物衣料に動きがみられたものの、全般的に伸び悩み、前年を下回った。3月は、飲食料品が催事効果により2か月連続して前年を上回ったものの、気温が低く推移したため、春物衣料の動きが鈍く、全体では6か月連続で前年を下回った。

スーパーは、飲食料品が1～3月期を通して好調だったが、衣料品、家庭用品などが不調で、全体では4か月連続で前年を下回った。

### 景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連DI(現状判断)]

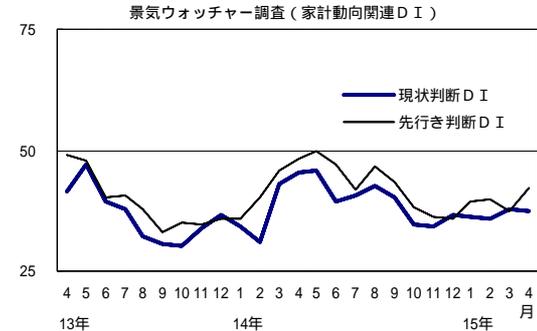
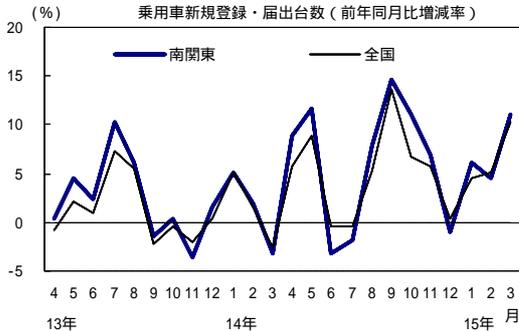
「来客数、売上高ともに前年を下回っている。4月は前半の天候不順と低い気温で、春物から初夏物の動きが鈍い。株安やSARSの心理的影響もある(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月
大型小売店	2.1	1.8	2.2	2.0
百貨店	2.6	2.1	2.8	2.4
スーパー	1.6	1.6	1.5	1.6
乗用車	4.8	6.4	5.5	7.8
景気ウォッチャー	43.5	41.2	35.2	36.6

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

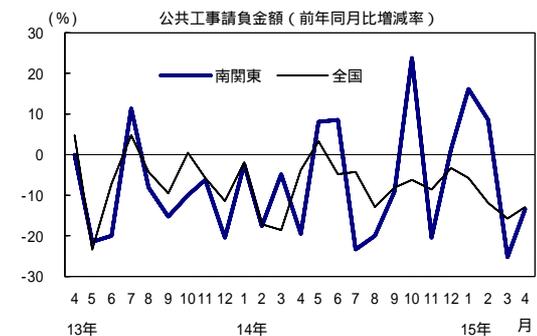
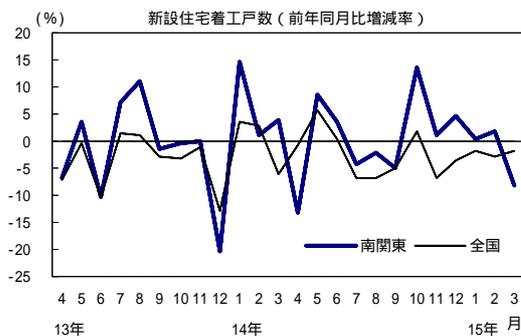
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断DIの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

貸家が前年を上回ったものの、分譲が下回ったことから、全体では緩やかに減少している。

(3) 公共投資は14年度累計で見ると13年度を下回っている。

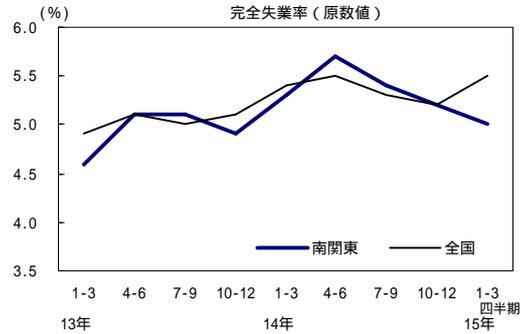
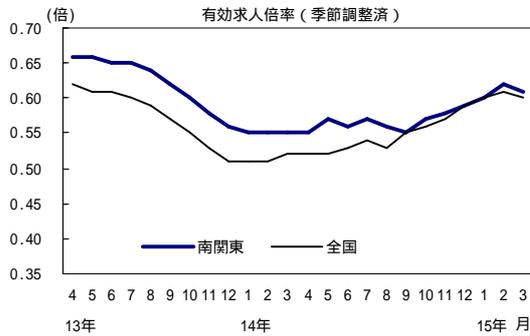


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ緩やかに上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(4月調査)[雇用関連(現状判断)]

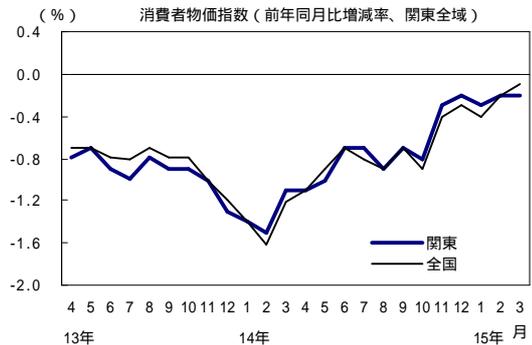
「売上不振による売場の縮小、出店予定の計画中止など、求人側の都合により採用者数が減少している。求人側は、低賃金で質の高い求職者を採用したがるが、質の高い求職者は高い賃金を要求するので、条件が折り合わず、採用に結びつかない(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月	15年4月
倒産件数	1,467	1,439	1,406	1,382	467
(前年比)	5.6	7.6	9.5	13.0	10.5
負債総額	14,201	13,701	16,126	19,914	2,495
(前年比)	40.9	28.1	36.8	15.2	46.8



景気ウォッチャー調査(4月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・イラク戦争による石油製品の価格上昇に伴い、物価が上昇し、買い控えが出ている(衣料品専門店)

<先行き>

・イラク戦争、SARS、株価問題などは、2、3か月後には落ち着き、住宅購入に対する慎重な姿勢も変化する。贈与税改定により、親からの資金援助で住宅を購入できる人が増加する(住宅販売会社)

